

# ブランディング戦略での リハビリテーション部門の強化

-BI、BBS、MMSEによる入所後3カ月間分析-



(大阪府)介護老人保健施設アロンティアクラブ  
リハビリテーション部 ○渡辺健太 中村仁春 井川直樹

# 背景①

- 近年、病院➡在宅へ、施設➡在宅といった在宅シフトが医療介護の共通の流れとして加速している。診療・介護報酬でも在宅復帰に関する加算が多く組み込まれ、今後もその重要性は加速していくと予想される
- 当施設は、大阪府大阪市住之江区にある入所定員100名の超強化型老健施設である。現在、住之江区には強化型以上の機能を有した老健施設は存在していない
- 超強化型老健としてリハビリテーションを提供し、在宅復帰・在宅療養支援を行える老健本来の機能を有する施設としての役割を果たすことが使命であると考えている



# 背景②

第28回全国介護老人保健施設大会(愛媛)



インターナルマーケティングにより  
課題解決に努めていくことを報告

## 【課題】

転倒予防、在宅復帰に向けたADLの  
向上、認知症ケアの対応等



# 目的

- ブランディング戦略として実践していたリハビリテーションサービスの質の向上が図れたのかを明確にすること

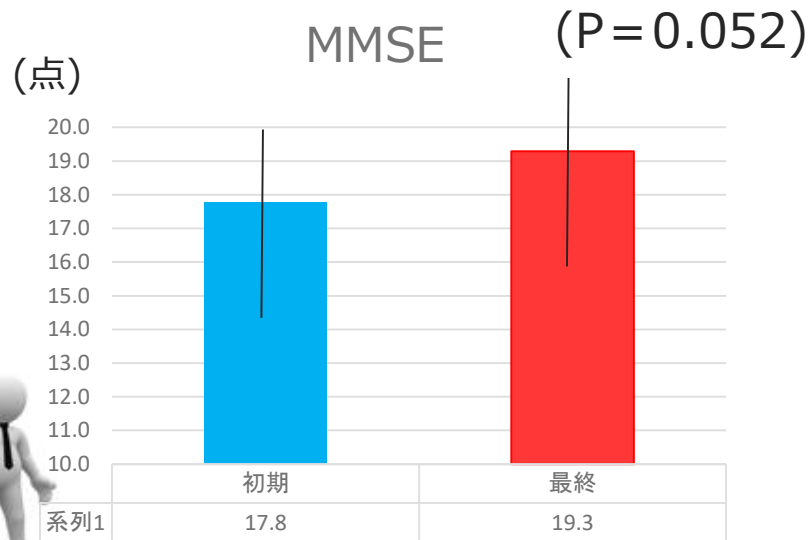
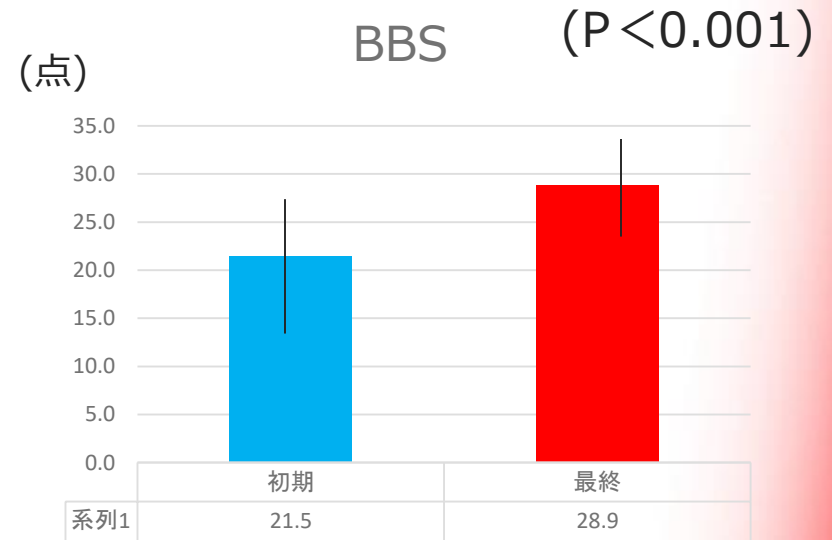
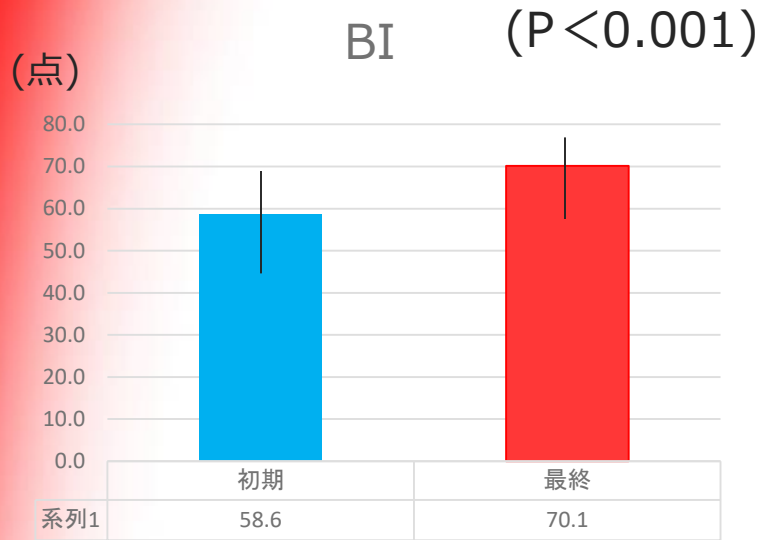


# 方法

- 対象は平成30年度に入所し、短期集中リハビリテーション実施加算を算定した35名(平均年齢 $82.2 \pm 7.0$ 歳)
- 評価期間は平成30年度の1年間で3ヶ月以上の入所期間がある者
- 途中入院や早期に在宅復帰した者は除外
- 評価項目はBarthel Index(以下、BI)、Berg Balance Scale(以下、BBS)、Mini-Mental State Examination(以下、MMSE)
- 入所時及び入所3か月後の2回評価を行った。
- 分析には対応のあるt検定にて統計処理を行い、有意水準は5%とした



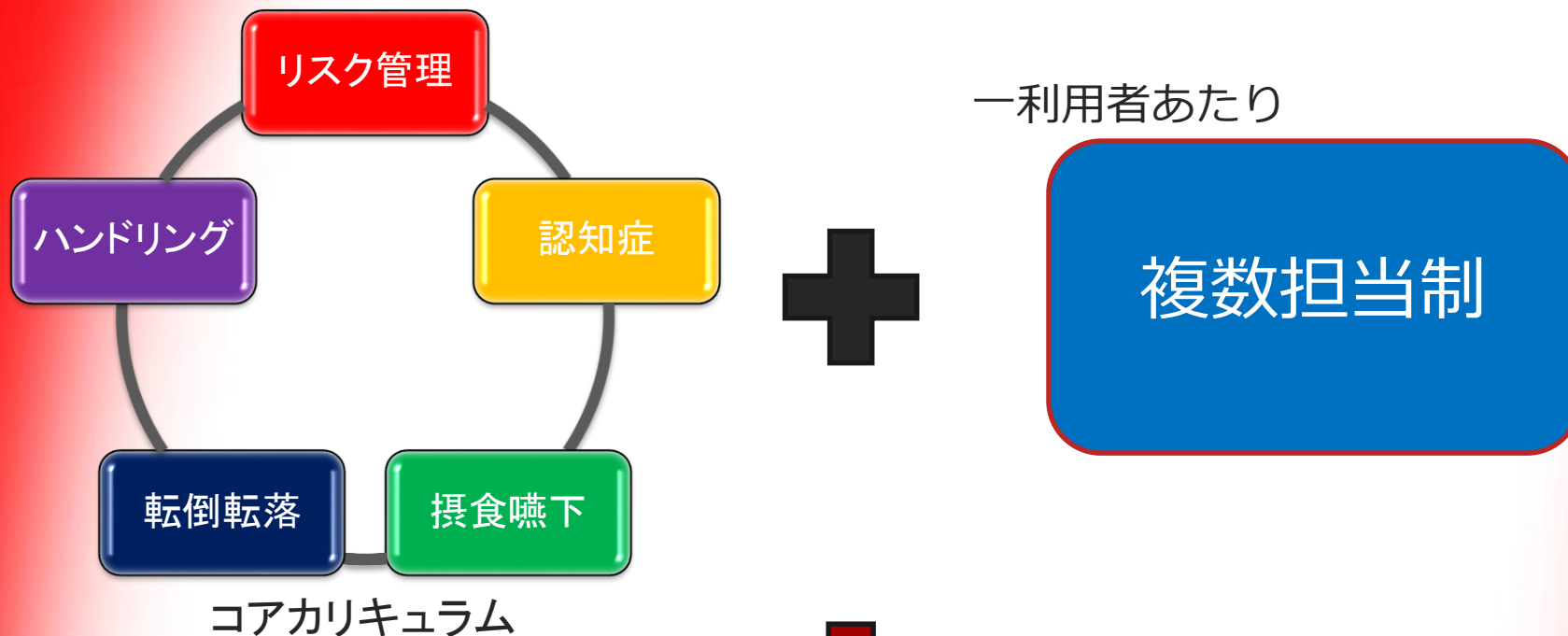
# 結果



※失語症にて検査困難な対象者5名あり

# 考察

～BIが有意に改善されたこと～



リハ部門での連携強化  
POSTの幅広い展開が可能

BIが有意に改善



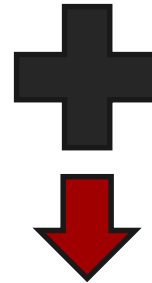


# 考察 ～BBSが有意に改善されたこと～

## BBSとは・・・

- ・ 高齢者に対する転倒のスクリーニングに有用(グレードA)
- ・ 施設利用の後期高齢者に対する運動介入の効果判定として有用な指標
- ・ 14項目の検査項目あり

コアカリキュラム  
(転倒予防)



一利用者あたり

複数担当制

セラピスト間の知識・技術の向上と連携強化

POSTの幅広い展開が可能

- ・ 転倒リスク詳細な評価可能
- ・ 問題点の抽出、治療プログラム立案の一助にできた

BBSは  
検査項目が多いが...

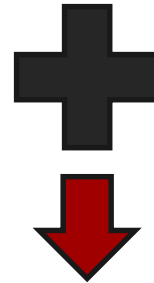




# 考察 ～MMSEが改善傾向であったこと～

一利用者あたり

コアカリキュラム  
(認知症班)



複数担当制

POSTが共通の知識・言語化へ  
各専門職の立場から認知機能低下の予防的  
介入にも積極的に行っている

例えば・・・

有酸素運動を取り入れ、時間や曜日、季節を感じられる活動の提供  
セラピストが橋渡しとなり、他者交流が出来るような活動の提供  
排泄の自己管理を含め、排泄動作に多職種で着目した活動



閉じこもりの軽減  
(利用者本人のやる気スイッチON)  
高次の脳活動にて賦活化



# 結語

- 超強化型老健として我々のビジョンを達成するため、現状の課題(転倒予防・ADLの向上・認知症予防)に対するアプローチを行った
- 結果として、入所3ヶ月間で、日常生活動作レベルの向上、転倒リスクの軽減、認知機能の向上に繋がった。このブランディング戦略により、当施設が地域の中で何が出来るのか、といったことが明確になった
- 今後も引き続き、生活期におけるリハビリテーションの質を科学していき、良質なアウトカムを打ち出していきたい

